様式Ｃ－１９

# 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25　年　　5 月　20　日現在

機関番号：３２６４３
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010～2012
課題番号：２２５２０８３０
研究課題名（和文）　ネパール社会における階層とジェンダー：ポスト・カースト社会の人類学的研究
研究課題名（英文）　Class and Gender in Nepal: An Anthropological Study in Post-caste society
研究代表者
佐藤　斉華（SATO SEIKA）
帝京大学・文学部・准教授
研究者番号：10349300

研究成果の概要（和文）：ネパールの中流及び労働者階級の女性達の労働と生活の実態を明らかにすることをめざした 3 年間にわたる本研究プロジェクトは、研究 2 年目における研究代表者による長期滞在現地調査を中心として、そのための準備作業及びその成果の取りまとめ作業として遂行したものである。ネパール・カトマンズ市を中心として行った現地調査においては、女性達による様々な社会活動・コミュニティ活動への参与観察とともに、女性達を対象とした質問票を用いたインタビュー調査を行い、階層・職業及び有職・無職の差異との関係において、彼女達が生きている社会的現実を明らかにするための基礎的資料を得た。

研究成果の概要（英文）：This three-year project, which aimed at exploring the lives and work of Nepalese women from various class / occupational backgrounds, is centered around a field research conducted in the second year of the project period. Its preparation and its data analysis were carried out in the first and the third year, respectively. The field study was conducted in and around Kathmandu and rich narrative data was collected mainly through structured interviews, supplemented by participant observations in various social occasions among these women. Accordingly, a data set was built to be used to clarify a profile of classed / gendered social reality lived out by contemporary Nepalese urban women.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| ２０１０年度 | 2,000,000 | 600,000 | 2,600,000 |
| ２０１１年度 | 1,300,000 | 390,000 | 1,690,000 |
| ２０１２年度 | 400,000 | 120,000 | 520,000 |
| 総　計 | 3,700,000 | 1,110,000 | 4,810,000 |

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文化人類学、文化人類学・民俗学
キーワード：ネパール、階層、ジェンダー、労働

## １．研究開始当初の背景

1990 年以降、ネパールも経済開放路線へと舵を切り、グローバル経済の周縁により深く組み込まれるようになってきている。そうしたなか、特に都市部においては、中間層のめざましい台頭がみられる一方、農村からの貧困層流入も急であり、階級的格差はますます可視的な都市的現実となりつつある。

これまでネパールを舞台として行われた人類学的研究は既に相当の蓄積を見ており、女性ないしジェンダーに関わる業績に絞っても、既にかなりの数に上る。しかし、そのほとんどが、ネパールの人々を構成する多様な民族（ないしカースト）集団の個別研究な

いしそれらの間の相互関係（＝民族／カースト間関係）に関するものであった。現在極めて重要な社会的差異として立ち現れてきている階層的差異に照準するものは、ほとんど存在しないといっても過言でない状況にあった。

２．研究の目的

このような状況を踏まえて本研究は、本格的な学術研究がほとんど存在してこなかった、この階級（階層）の視点からのネパール社会研究を構築する第一歩を踏みだすことをめざしたものである。民族・文化的な多様性に富み、その差異が現今のネパール政治の焦点の一つとなっていることは否定すべくもない一方で、とりわけ都市化（カトマンズへの一極集中）の波のなかで、民族／カースト的なヒエラルキーにかわる新たな階級社会が形成されつつあるのは紛れもない事実である。この事実を正面からとりあげた研究が、今要請されるのである。

本研究は、階級（階層）の差異に、社会的分断線として過去も現在も極めて重要なものであり続けているジェンダーによる差異を交叉させることで、具体的な幾つかの社会範疇（中間層職業女性、中間層主婦、労働者階級女性（建築労働者女性と露天商女性）を含む）を切り出し、調査の対象として設定した。それら各々の諸範疇に属する女性達おける生活と労働の実態を明らかにするとともに、相互の比較対照を行っていくことで、現今再編されつつあるネパール階級社会のダイナミックな一断面図を描きだすことを企てたものである。

３．研究の方法

現地調査では、人類学的フィールドワークとして標準的な参与観察によるものとともに、質問票を作成してそれに沿って面接を行う構造化インタビューを採用した。

階層／職業的諸範疇は、人類学の伝統的調査対象がそうであったように、必ずしもそれとしてまとまったコミュニティを形成していないことを踏まえれば、参与観察的な方法には当然限界がある。様々な階層・職業的地位の女性達の日常生活の様々な場面に、機会をとらえて積極的に参加させてもらうとともに、各階層／職業的範疇につき各 50 人をめどとして統一した質問項目に基づくインタビュー調査を行うことで、階層／職業の観点から切り分けた各範疇について、比較可能なかたちを備えた系統的資料の形成を行った。

質問項目には、賃労働についてのそれ（職業を持っている場合）とともに、無償の家事労働、子育て実践等についての質問、これまでの学業・職業上のヒストリー等に関するものも含め、調査対象者女性の生活の全貌をバランスよくカバーするものとなるよう努めた（対象者が賃労働についている場合とついていない場合で、質問票は異なるものを用意した）。また、各対象者に対して統一した基本的に質問項目を使用したとはいうものの、単純に集計可能なサーヴェイ型の聴き取り調査を行ったのではないことを強調しておきたい。対象者一人一人に向き合い、時間をかけて豊かなディテールを含んだ語りを引きだすとともに、語りの微妙なニュアンスを可能な限り汲みとることを心がけつつ、インタビューを実施したものである。いわば、インタビューという場自体における参与観察が、この研究プロジェクトの中心的な方法であったといえるだろう。

４．研究成果

質問票を利用して蓄積した様々な階層／職業的社会範疇に属する女性達のインタビュー資料は、合わせて 300 人をこえる。言説的な資料としての厚みをもったそれらの十全な分析作業には、なお相当の時間がかかると見込まれ、3 年のプロジェクト期間を終了した現時点では、まだその中途段階にあるといわざるをえない。

それでもここまでの分析作業から、既に明らかになってきた点もある。

その幾つかをあげれば、現在のネパール階級社会を構成する女性達においては、

(1) 階層的地位が上であるほうが、職業的満足が高いとは限らない、
(2) 全階層の女性にわたって、女性であることと直接に関わる職業上の困難（処遇や配属上の性差別、性的な「純潔」に関わるリスクにさらされること等）が感じられている、
(3) 全階層にわたって、家事労働への夫（男性）の参加の程度はあまり高くなく、家事責任は基本的に女性が担うことになっていることが多い（ただし世帯／家族によるばらつきも大きい）、

―等である。

こうした成果の一部（労働者階級のなかの特に建築労働者女性に関するもの、再生産実践に関わるもの）は既に、公けにされているか、される見込みとなっている部分がある（次項の「主な発論文等」を参照）。

早い段階で分析に着手した建築労働者女性に関して明らかになった極めて興味深い事実は、その物理的にも雇用環境的にも厳しい労働条件にもかかわらず、彼女達の職業満足度が極めて高いことである。この一見意外なレスポンスは、次のような諸要因と関連づけて理解されると考えられる。すなわち、インフォーマル・セクターにおける全般的に厳しい労働環境のなかでは、建築労働には相対

的に望ましいと捉えられる幾つもの属性（日給の高さ、自律的に労働できること、労働時間が比較的短いこと、労働者間の広いネットワークが存在すること等）が備わっていること、彼女達の「階級的地位」に応じた現実的な期待（生活の糧を得ること、子女を最低限学校に通わせること）を建築労働による収入がとりあえずは満たすことができていること、彼女達が自ら（とその子ども世代の）人生全般に関してポジティブな見通し／態度を保持していること等である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

①Seika Sato "'Satisfied with My Job'—What does she mean?: Exploring the world of Women Construction Workers in Nepal." *International Journal of South Asian Studies* vol.6, forthcoming（査読有）.

②佐藤斉華「世界の『片隅』で、フェミニズムを語る ―ネパール、ヨルモ女性とのライフ・ストーリー実践―」『女性学（日本女性学会学会誌）』vol.20:38-57、2013 年（査読有）。

③佐藤斉華「ジェンダーをやる／やめる ―ネパール・ヨルモ社会における女の実践、男の実践―」『帝京社会学』26:59-100、2013 年（査読無）。

④佐藤斉華「『労働者』という希望 ―ネパール・カトマンズの家事労働従事者の現在―」『文化人類学』75（4）:459-482、2011 年（査読有）。

〔学会発表〕（計 8 件）

①幅崎麻紀子「発表標題 アジアのリプロダクションの現状～ネパール～」、「アジアのリプロダクション」研究会（於奈良女子大学）、 2013 年 3 月 16 日（招待有）。

②幅崎麻紀子「ネパールにおける「家族計画」を超えるローカルな実践」、国際ジェンダー学会「開発とジェンダー」分科会（於和洋女子大学）、2012 年 12 月 15 日（招待有）。

③佐藤斉華「いかにして、彼女達は『仕事に満足』か？―カトマンズの女性建築労働者場合―」 日本南アジア学会第 25 回全国大会（於東京外国語大学）、2012 年 10 月 6 日（招待無）。

④Seika Sato "'Satisfied with My Job'—How is she? The Case of Women Construction Workers in Kathmandu and Beyond". The Second ANHS (Association for Nepal and Himalayan Studies) Himalayan Studies Conference (Western Michigan University, Kalamazoo, MI), September 23rd,2012（招待無）.

⑤幅崎麻紀子「女性研究者のライフプランの形成と選択要因：ワークライフに関する語りの分析から」、第 60 回北海道社会学会大会（於國學院大学北海道短期大学部）、2012 年６月９日（招待無）。

⑥Makiko Habazaki, "Family Planning and the Widening Social Disparity among Women in Contemporary Nepal". Association for Asian Studies, the 2012 Annual Conference (the Sheraton Centre, Toronto Hotel), March 12th, 2012（招待無）.

⑦ Makiko Habazaki "Women and Political Participation After Civil War: A Case Study of Nepal". Women's World 2011(University of Ottawa), July 5th, 2011（招待無）.

⑧幅埼麻紀子「『病院出産』を飼いならす：ネパールにおける出産の医療化についての一考察」、第 59 回北海道社会学会大会（於天使大学）、2011 年 6 月 4 日（招待無）。

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
佐藤　斉華（Sato Seika）
帝京大学・文学部・准教授
研究者番号：10349300
(2)研究分担者
幅埼　麻紀子（Habazaki Makiko）
筑波大学・学内共同利用施設等・准教授
研究者番号：00401430

(3)連携研究者

(　　)

研究者番号：